

# 戯画堂 芦ゆき

## —上方の役者絵(二)—

松 平 進

### 目次

- 緒言
- 一 作品一覧
- 二 署名・印章
- 三 彫師・摺師・版元
- 四 合作・師受関係

### 結言

### 緒言

上方役者絵の一つの流れは、春好齋北洲からその門弟春江齋北英への大動脈であるが、今一つ之に拮抗する狂画堂蘆園から戯画堂芦ゆきへの線をあげる事が出来る。私は先に「上方の役者絵(一)」として春好齋北洲についてまとめたので(註1)、本稿はその(二)として芦ゆきを眺みてみたものである。著名な師の蘆園について一

稿をさく前に、弟子の芦ゆきを取り扱ったのは、松好齋をとばして春好齋をまず扱ったのと同じ理由で、絵本を別にして管見に入った作画量が少いからにはかならない。大体において私は、一〇〇件以上その絵を見る事の出来た絵師をまず見て行こうという方針だからである。しかし一〇〇件と限ると、北洲・北英それに貞信を除けば、芦ゆき一人だけであって、これにつぐ大物である柳齋重春や芳園も、私の見得た数ははるかに少いのである。

かく作品数を確保できる芦ゆきではあるが、その人物に関して今日知られている所は、極く限られている様である。この方面の総合的な研究である黒田源次氏著『上方絵一覧』及び之を詳細に補訂された吉田暎二氏著『歌舞伎絵の研究』について見てもそうであるが、ここで辞典風に記述のまとまっている守隨憲治氏著『歌舞伎序説』所収「伝記編・歌舞伎絵師略伝八八」をひいてみると、左の様に見える。

伝記不明。号、初め長国、後蘆幸。文政五年蘆幸と改めた。蘆園門下ともいふ。大阪の人、道修町御靈筋に住む。作画期は文化十年頃から天保中頃に互り、役者絵多く、錦絵の外に合羽絵

の遺作もある。

右のうち名前と作画期に関する点は、後の各章にゆずるが、住まいの点は、黒田氏が紹介し前掲書に引いている「浪華諸流画人名家案内」という天保頃の一枚摺の様な資料によられたものであろうか、それには左の様にあつて私にも確認する事が出来た。

道しう町ごれうすじ

戲画堂蘆幸

次に師承関係が蘆国門下かと言う点は、例の絵に記されている署名の肩書きには、その証となるものを私は発見できなかった。しかし黒田・吉田両氏も蘆国門とされていて、まず間違いないと推定せらうと思われる。

以上のほかにはその閨歴は全く不明で、絵本類も私の知る限り書いてないらしく、その点で春好齋北洲より条件が悪い。言うまでもなく『浮世絵類考』『京撰戯作者考』『浪華名家墓所記』等も記載を欠いていて、その閨歴が可なりわかつている師の蘆国とは対照的である。

ところで前に述べた通り、私は春好齋北洲の稿を先にまとめたが、その掲載誌の印刷が遅れて本稿より後になるらしく、その為生じた記述の齟齬を心配する。重複をいとわず書いた所もあるが、一般的な説明は再説も出来なかつたので、別稿を参照して頂ければ幸である。ただ繰返して、本稿が全く、阪急学園池田文庫の終始変らぬ御厚意によってその完備した収集を拜見できた事に負うている事を記して、感謝の気持を表わさせて頂きたい。また早稲田大学演劇博物館の所蔵絵を拜見させて頂き、私の調査を拡げる事が出来た点も、併せて心から御礼申上げたい。又これも繰返したが、私が心がけた事、又出来る事は、作品の縦覧という基礎作業で、その上に若干頂

を付け加えて一稿を成したに過ぎない。盲蛇の手さぐり仕事である点前稿と同じで、叱正を得て完全なものに出来れば、これ以上の喜びはない。

註1 『梅花女子大学文学部紀要』第四号に掲載予定。

## 一 作品一覧

凡例

①長国・芦(蘆)幸・あし幸・芦雪・戲画堂あし幸などと署名のある役者絵を年代順に配列した。合作については、他の絵師のものも併せて掲げておいた。

②画面に見えている要素は、可能な限りそのまま記すようにした。記載方法は上から下へ、役名・役者名・絵師署名・印章(記号)、その横に小字で彫師・摺師、版元の順である。画面に間々見えている狂句・狂歌・歌謡・口上の詞等も掲出したかったが、長大なものもある為省いた。推定して私に加えたものや説明は全て括弧に入れた。

③絵師の印章は形によって分類し(A)(B)(C)の記号で記した。なおその形は写真版で後に掲げてある。

④同一版の絵が多くあつて、画面に見える要素に多少のある場合は、その多い方に従つた。

⑤一枚に二人以上の役者が画かれている場合は、列記した役者名の最後の下方に、絵師・版元等を記した。

⑥池田文庫所蔵分を元にし、早稲田大学演劇博物館所蔵分を※※で示した。又直接披見していないが『上方絵一覧』に記載

あるものは加えて※で示した。この場合の記し方は、全く同書のままにせざるを得なかった為、他と統一がとれず、又記載自体に疑問のある場合もあったが、私に改める事はしていない。

⑦絵には通し番号を附し、引用の際は「5」の如く括弧にくくって示した。

1 ※松 王丸

中村歌右衛門 長国画

塩長板

△文化十・九、中、菅原伝授手習鑑▽

2 ※荒尾村きつ

大谷友右衛門

長国改芦幸画④

塩長

※宮城あそ次郎

風 吉三郎

長国改芦幸画④

塩長

△文化十一・正、角、けいせい筑紫歌▽

3 ※宮本友治郎

中村歌右衛門

あし幸画

塩長

※けいせい武蔵野

中山よしを

蘆幸画

塩長

△文化十一・二、中、復讐二島英雄記▽

4 ※岩井風呂治助

片岡仁左衛門

蘆友画

塩長

※大 治

中山 百花

歌国画

塩長

※茂 兵衛

中村歌右衛門

歌国画

塩長

※万 りき

風 団八

蘆幸画

塩長

※と み

大 吉

蘆幸画

塩長

△文化十一・四、中、宿無団七時雨傘▽

5 □ 柴 久吉

あらし吉三郎

あし幸画⑧

塩長

△文化十一・八、角、比良嶽雪見陣立▽

6 あしかゞ政右衛門

中山新九郎

芦幸画⑨

塩長

△右同狂言▽

7 ※玉島幸兵衛

風 吉三郎

蘆幸画

塩長

※日本駄右衛門

片岡仁左衛門

あし幸画

塩長

△文化十二・正、中、秋葉権現廻船斬▽

8 ※梅 川

中山よしを

蘆幸画

綿喜

※忠 兵衛

中むら歌右衛門

あし幸画

綿喜

△文化十三・正、角、恋飛脚大和往来▽

9 唐木政右衛門

片岡仁左衛門

幸芦画

天喜

菅田内記

中村歌右衛門

あし幸

天喜

△文化十三・正、角、伊賀越乗掛合羽▽

10 ※三浦荒次郎

市川鯉十郎

あし幸画

※佐野源左衛門

中村歌右衛門

あし幸画

△文化十三・三、角、三月開嬉心船橋▽

11 能登之守

風 吉三郎

蘆幸画

塩長

瀬尾ノ七良

あらし団八

蘆幸画

△文化十三・八、中、勝鬨寺源氏▽

12 高市武右衛門

片岡仁左衛門

芦幸画

シラ長

次良左衛門

中村歌右衛門

芦幸画

塩長

加村宇太右衛門

市川鯉十郎

芦幸画

塩長

△文化十三・八、角、織合襦袢▽

13 頼 兼

中村歌右衛門

芦幸画

塩長

高 尾

藤川 花友

芦幸画

塩長

△文化十三・九、角、伽羅先代萩▽

14 笹原左門之助

尾上 新七

芦幸画

塩長

佐々原隼人

風 吉三郎

あし幸画

塩長

△文化十三・九、中、濃紅葉小倉色紙▽

15 淀町御前

中山よしほ

芦幸画

塩長

石田のつぼね 中村歌右衛門 芦幸画 塩長  
真柴久つぐ 市川蝦十郎 芦幸画 塩長

16 ※吾妻与四郎

△文化十四・正、角、けいせい稚児洩▽  
嵐 三五郎  
市川門之助  
△浪花次郎作 中村歌右衛門 長国画  
△文化十四・正、角、戻り駕▽  
中村歌右衛門 長国画

17 ※十二月の内 まき月けいせい

△文化十四・三、角、莫恠踊化姿 一▽  
中村歌右衛門 長国画  
おたね 中山よしほ  
直江山しろの守 ありし三五郎 よし国画  
山本勘助 中村歌右衛門 芦幸画  
景かつ 市川蝦十郎 あし幸画

18

△文化十四・五、角、本朝廿四孝▽  
中村歌右衛門 長国画  
よこ蔵 綿喜

19

△右同狂言▽  
佐々木もり綱 嵐 吉三郎 芦幸画二枚つゞき 塩長板  
塩やき藤太 ありし冠十郎  
さゝ木広綱 浅尾工左衛門 芦幸画 塩長板

20

△文化十四・七、中、先陣藤戸誉▽  
多加、太正鳥井又助 嵐 吉三郎 戲面堂芦幸画 塩長  
望月源蔵 市川蝦十郎 戲面堂芦幸画 塩長

21

△文政元・正、中、加賀見山廓写本▽  
梅の由兵衛 市川蝦十郎 蘆幸画 塩長

△文政元・八、角、隅田春妓女容性▽  
23 万野兵庫 市川 団蔵 芦幸画 塩長  
稻田当蔵 市川蝦十郎  
遠山甚三 浅尾勇次郎 芦幸画 塩長

24

△文政二・四、角、▽傾城忍術池▽  
△(死絵) (嵐橋三郎) 芦ゆき⑤

25

※源三位頼政 嵐 橋三郎 浪花長国画 ワタキ  
△文政四・八、北新地、頼政鶴物語▽  
26 ※※阿八ノ十郎兵衛 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画(欠)  
△文政四・八、北新地、阿波鳴門▽

27

さくら丸 ありし橋三郎 芦ゆき あき惣  
△文政五・十一、中、菅原伝授手習鑑▽  
28 いてふのまへ ありし小六 芦ゆき画 泉理本清

29

茶坊ちん才 坂東重太郎 泉理本清  
△文政六・正、中、けいせい品評林▽  
名古屋山三 嵐 橋三郎  
奴 鹿蔵 中山 一蝶 戲面堂芦ゆき画(欠)

30

※けいせいいかつらぎ 嵐富美三郎 蘆ゆき画 天喜・市  
△右同狂言▽  
△右同狂言▽  
31 ※今川男之助 中村歌右衛門 蘆ゆき画 綿喜

32

※青柳藏人実は伊勢新九郎 額十郎 同 同

- 32 ※仲居おてる  
 藤川 友吉 芦ゆき  
 庄九郎妻小蝶 中村 歌六 よし国  
 新九郎妻 沢村国太郎 国広  
 △右同狂言▽  
 利新  
 利新  
 利新
- 33 神田勘左衛門 市川鯉十郎 芦ゆき画  
 南宮市ノ正 浅尾額十郎 芦ゆき画  
 △文政六・七、角、恋陸奥媚戯▽  
 市川 団藏 椿蘆ゆき画  
 綿喜  
 綿喜  
 綿喜
- 34 ※夏梅専太郎 市川 団藏 椿蘆ゆき画  
 △右同狂言▽  
 綿喜
- 35 雷 丸 中村歌右衛門 芦ゆき画①  
 福 まる 市川鯉十郎 芦ゆき画  
 △文政六・九、角、敵討崇禪寺馬場▽  
 綿喜  
 綿喜  
 綿喜
- 36 志賀谷五郎 嵐橋三郎 芦ゆき画②  
 △文政六・九、中、姉妹達大礎▽  
 本清  
 本清  
 本清
- 37 志賀谷五郎 嵐橋三郎 芦ゆき③  
 古璃寛三回忌追善 △右同狂言▽  
 綿喜  
 綿喜  
 綿喜
- 38 放駒長吉 嵐橋三郎 芦雪画  
 長五郎 浅尾額十郎 多美国画  
 中山 百藏 芳洲画  
 △文政六・十一、中、双蝶々曲輪日記▽  
 本清  
 本清  
 本清
- 39 駒沢次郎左衛門 嵐橋三郎 芦ゆき画④  
 けいせい瀬川 あらし小六 芦ゆき画⑤  
 △文政七・正、中、けいせい筑紫駈▽  
 綿喜  
 綿喜  
 綿喜
- 40 宮城阿曾次郎 あらし橋三郎  
 綿喜
- 41 ※娘 みゆき 嵐富美三郎 蘆ゆき画  
 宮城阿曾次郎 嵐橋三郎 多美国画  
 △右同狂言▽  
 (欠)  
 (欠)  
 綿喜
- 42 藏人助国 市川団藏 芦ゆき画⑥  
 越野勘左衛門 中村歌右衛門 芦ゆき画⑦  
 和田雷八 市川鯉十郎 芦ゆき画⑧  
 △文政七・正、角、遮傾城花大矢数▽  
 中村歌右衛門 芦ゆき画⑨  
 △文政七・三、角、ひらかな盛衰記▽  
 中村歌右衛門 蘆ゆき画  
 △文政七・五、堀江、蘆屋道満大内鑑▽  
 中村歌右衛門 蘆ゆき画  
 △文政七・五、市側芝居、女猿曳阿彌▽  
 中村三光 蘆ゆき画  
 △文政七・五、紀ノ有常 嵐橋三郎 芦ゆき綿  
 春日野しのぶ 藤川 友吉 芦ゆき画  
 △文政七・八、中、競伊勢物語▽  
 嵐橋三郎 阿らし小六 芦ゆき⑩  
 △文政七・八、中、伏見街道噂曉月▽  
 中村歌右衛門 蘆ゆき画  
 菅田内記 市川 団藏 同  
 △文政七・八、角、伊賀越乗掛合羽▽  
 市川 団藏 芦ゆき画  
 若とう勇助 市川 団藏 芦ゆき画  
 綿喜
- 43 (梶原源太景季 中村歌右衛門) 芦ゆき画⑩  
 置
- 44 ※安部保名 中村歌右衛門 蘆ゆき画  
 玉置
- 45 ※女猿廻し小よし 中村三光 蘆ゆき画  
 綿喜
- 46 紀ノ有常 嵐橋三郎 芦ゆき綿  
 画喜
- 47 春日野しのぶ 藤川 友吉 芦ゆき画  
 綿喜
- 48 ※唐木政右衛門 市川 団藏 同  
 菅田内記 市川 団藏 同  
 △文政七・八、角、伊賀越乗掛合羽▽  
 市川 団藏 芦ゆき画  
 若とう勇助 市川 団藏 芦ゆき画  
 綿喜

※女房おそで

中村 三光 同

同

57 萩塚鳴戸之助

中川 団藏

萩東寿太郎 芦ゆき画

畠名 織部 坂尾類十郎 芦ゆき画

50 錦昌 女 嵐 小六 芦ゆき画

本清 畷

尾形秀丸 大谷友右衛門

福嶋左衛門 浅尾類十郎 芦ゆき画

利新

本清

51 作十郎女房初雪 沢村国太郎 芦ゆき画

本清 畷

多ノ嶋藏

嵐 橋三郎 芦ゆき画

本清

52 海士お浪 中村 歌六 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

58 一世一代 おその

中村歌右衛門

市川蝦十郎 戲面堂芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

53 あまお浪 中村 歌六 芦ゆき画

右同

59 一世一代 五斗兵衛

中村歌右衛門

市川蝦十郎 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

54 あまおなみ 中村 歌六 芦ゆき画

畷 本清

60 一世一代 熊谷ノ次郎

中村歌右衛門

芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

55 漁師磯六夷ハ 嵐 橋三郎 芦ゆき画

畷 本清

61 多度津一角 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画

市川蝦十郎 戲面堂芦ゆき画

ワタキ

ワタキ

56 漁師磯六夷ハ 嵐 橋三郎 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

62 鷹がね文七 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

57 萩塚鳴戸之助 市川 団藏 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

63 (口上図) 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

58 毛谷村六助 市川 蝦十郎 戲面堂芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

64 (役者雪見図) 中村歌右衛門

中村歌右衛門

浅尾五国郎

戲面堂芦ゆき写 (欠)

59 一世一代 熊谷ノ次郎

中村歌右衛門

京極内匠

芦ゆき画 畷 蒼ワタキ

56 漁師磯六夷ハ 嵐 橋三郎 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

65 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

57 萩塚鳴戸之助 市川 団藏 芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

66 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

58 毛谷村六助 市川 蝦十郎 戲面堂芦ゆき画

畷 蒼ワタキ

67 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

59 一世一代 熊谷ノ次郎

中村歌右衛門

京極内匠

芦ゆき画 畷 蒼ワタキ

60 一世一代 熊谷ノ次郎

中村歌右衛門

京極内匠

芦ゆき画 畷 蒼ワタキ

61 多度津一角 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画

市川蝦十郎 戲面堂芦ゆき画

68 鷹がね文七 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

62 鷹がね文七 嵐 橋三郎 戲面堂芦ゆき画

中村歌右衛門

69 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

63 (口上図) 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

64 (役者雪見図) 中村歌右衛門

中村歌右衛門

浅尾五国郎

戲面堂芦ゆき写 (欠)

65 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

66 中村歌右衛門

中村歌右衛門

京都にて

芦ゆき画 利新

中村 歌六 あらし橋三郎  
市川 蝦十郎 あらし小六 菅ゆき写 (欠)

65 高 尾 中村 歌六 戲画堂声ゆき画 (欠)  
伊達 頼兼 浅尾 額十郎 戲画堂声ゆき画 (欠)

66 小割 伝内 嵐 橋三郎  
やり持与五介 三榎 松五郎  
同 かん助 中山 文五郎 戲画堂声ゆき画 (欠)

67 (嵐 橋三郎) 戲画堂声ゆき画 (欠)  
(嵐 来芝)

68 綱千右兵衛之助 嵐 橋三郎 戲画堂声ゆき画 本清  
△右同狂言▽

69 おすまの方 あらし 璃寛 戲画堂声ゆき画 綿喜  
娘 おきよ あらし 小六 戲画堂声ゆき画 綿喜  
小割 伝内 嵐 橋三郎 戲画堂声ゆき画 綿喜

70 大工 六三 実ハ 尾上 菊五郎  
松ヶ 枝鉄之助 嵐 小六 戲画堂声ゆき画 本清  
娘 おその △文政九・正、角、けいせい 達抄本▽

71 遠山 甚三郎 嵐 橋三郎  
けいせい 花扇 藤川 友吉 戲画堂声ゆき画 (欠) 綿喜

72 △文政九・二、堀江市、吉原細見図▽  
菅 相 丞 尾上 菊五郎 戲画堂声ゆき画 本清  
となみ 藤川 友吉

73 ※かりや姫 尾上 松助 戲画堂 蘆ゆき画  
かく 寿 額 十郎  
菅 相 丞 尾上 菊五郎 同  
てる 国 市川 団藏 同

74 熊谷 直実 中村 芝翫 戲画堂声ゆき画 綿喜  
△文政九・五、堀江、一の谷嫩軍記▽

75 (朝日奈藤兵衛) 市川 蝦十郎 戲画堂声ゆき画 (欠)  
(寺小舎兵助) 中村 歌右衛門 戲画堂声ゆき画 本清  
△文政九・七、中、極彩色娘扇▽

76 石川 五右衛門 中村 歌右衛門 戲画堂声ゆき画 (欠)  
※※真柴久吉 市川 蝦十郎 戲画堂声ゆき画 (欠)  
△文政九・八、中、木下蔭狭間合戦▽

77 此下 当吉 市川 蝦十郎 戲画堂声ゆき画 ワタキ  
竹中 勘兵衛 中村 歌右衛門 戲画堂声ゆき画 綿喜  
大 清 中村 芝翫

娘 ちさと 中村 松江 玉国画 ハタキ  
△右同狂言▽

87 くまわかまる 嵐 橋蔵 戯画堂声ゆき画 綿喜

88 船頭松右衛門 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

89 文政九・九、堀江、ひらかな盛衰記 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

90 佐々木丹右衛門 市川 団藏 戯画堂声ゆき画 本清

91 沢井城五郎 市川 団藏 戯画堂声ゆき画 本清

92 文政九・九、角、伊賀越道中双六 藤川 友吉 戯画堂声ゆき画 綿喜

93 女房 笹尾 藤川 友吉 戯画堂声ゆき画 綿喜

94 佐々木丹右衛門 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

95 文政九・九、角、伊賀越道中双六 藤川 友吉 戯画堂声ゆき画 綿喜

96 呉ふくや十兵衛 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

97 右同狂言 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

98 伊勢ノちじう 阿らし小六 芦ゆき画 (欠)

99 小野ノ篁 あらし橋三郎 芦ゆき画 本清

100 文政九・十一、京北側、競伊勢物語 大谷友右衛門 戯画堂声ゆき画 本清

101 唐ノ千嶋之守 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

102 三うら又藏 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

103 文政十・正、角、けいせい遊山桜 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

104 三うら又藏 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

105 虎之助 尾上 梅藏 戯画堂声ゆき画 本清

106 右同狂言 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 ワタキ

107 ふか草ノ茂助 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 ワタキ

108 二ぞろの八八 市川蝦十郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

109 右同狂言 市川蝦十郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

110 江戸 関 三十郎 座附引合之図 戯画堂声ゆき画 (欠)

87 文政十・正 所作事九枚続之内 石橋実ハ石塚左市 関 三十郎 戯画堂声ゆき画 本清

88 大じん 関 三十郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

89 朝日奈 関 三十郎 戯画堂声ゆき画 本清

90 けいせい 中村 松江 戯画堂声ゆき画 綿喜

91 少々 沢村国太郎 戯画堂声ゆき画 本清

92 石橋実ハ 中村 芝翫 戯画堂声ゆき画 本清

93 左竹新十郎 中村 芝翫 戯画堂声ゆき画 本清

94 実は大内秀丸 中村 歌右衛門 戯画堂声ゆき画 (欠)

95 奴 中村 芝翫 戯画堂声ゆき画 ワタキ

96 曾我五郎 中村 芝翫 戯画堂声ゆき画 本清?

97 文政十、正、角、春陽三獅子頭 中村 芝翫 戯画堂声ゆき画 本清?

98 法界坊のぼうこん 中村 歌右衛門 戯画堂声ゆき画 (欠)

99 文政十・四、堀江、隅田川花情所染 中村 歌右衛門 戯画堂声ゆき画 (欠)

100 今木伝七 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 本清

101 山内幸十郎 浅尾頼十郎 戯画堂声ゆき画 本清

102 女房おこう 沢村国太郎 戯画堂声ゆき画 本清

103 文政十・四、中、拳禪那大通 中村 歌右衛門 戯画堂声ゆき画 本清

104 うきすの岩松 市川蝦十郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

105 百姓 十作 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 綿喜

106 女房おきぬ 沢村国太郎 戯画堂声ゆき画 ワタキ

107 文政十・五、中、けいせい棧物語 中村 歌右衛門 戯画堂声ゆき画 (欠)

108 月本始メ之助 嵐 橋三郎 戯画堂声ゆき画 (欠)

109 右同狂言 市川蝦十郎 戯画堂声ゆき画 (欠)



93 阿政十年七月十六日没、行年五十一才  
いわかは次郎きち 阿らし橋三郎  
つるや礼三 ありし三五郎  
芦ゆき ほりへ綿貫板

△文政十・十、中、関取千両轡▽

94 熊坂長範 嵐 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
牛若丸 沢村国太郎 戯面堂芦ゆき画 本清

△文政十・十、中、勝鬨宇源氏▽

95 貫練門平振は 嵐 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 ワタキ  
つゝみ瀬平 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 本清

△文政十一・正、中、けいせい素袍殆▽

96 ※※六部快了 嵐 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
かみゆひお六 坂東寿太郎 戯面堂芦ゆき画 ワタキ

△右同狂言▽

98 鳴戸幸兵衛 坂東寿太郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
大内左馬之助 嵐 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
いつくしみ天女 嵐 富三郎 戯面堂芦ゆき画 本清

△右同狂言▽

99 お女中関屋 沢村国太郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
百兵衛 大谷友右衛門 戯面堂芦ゆき画 本清

△右同狂言▽

100 高嶋九八 嵐 橋三郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
大内よし澄 浅尾額十郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
お女中関屋 沢村国太郎 戯面堂芦ゆき画 本清

101 岩ふじ 坂東寿太郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
おはつ 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清

尾上 市川 団藏 戯面堂芦ゆき画 本清

△文政十二・三、中、鏡山旧錦絵▽

102 嫁おまつ ありし加納 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本七  
渡辺良助 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本七  
あづま 藤川 友吉 戯面堂芦ゆき画 本七  
淀屋辰五郎 市川 団藏 戯面堂芦ゆき画 本七

△文政十二・三、中、けいせい楊柳桜▽

103 沢村国太郎 戯面堂芦ゆき画 本清  
嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清  
中村 松江 戯面堂芦ゆき画 本清  
嵐 三五郎 戯面堂芦ゆき画 本清

△文政十二・七、角、木津川八景▽

104 宇治常悦 中村歌右衛門 戯面堂芦ゆき画 本清  
妹しのぶ 中村 松江 戯面堂芦ゆき画 本清  
庄屋七郎兵衛 片岡仁左衛門 戯面堂芦ゆき画 本清

△文化十二・七、角、碁太平記白石嘶▽

105 金江谷五郎 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清  
金江谷五郎 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清

△右同狂言▽

106 金江谷五郎 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清  
木津勘助 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清

△右同狂言▽

107 木津勘助 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清  
木津勘助 嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清

△右同狂言▽

嵐 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清  
璃寛 璃寛 戯面堂芦ゆき画 本清

加介ホ

△文政十二・七、角、棹歌木津川八景▽

108 ※木津ノ勘助 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 吉

※芸子咲子 中村 松江 戲面堂芦ゆき面 吉

※腕ノ次郎兵衛 市川蝦十郎 戲面堂芦ゆき面 吉

△右同狂言▽

190 仁木直則 市川白猿 七役之内 戲面堂芦ゆき面 本清

△文政十二・八、中、伊達競阿国戲場▽

110 細川勝元 市川白猿 七役之内 戲面堂芦ゆき面 本清

△右同狂言▽

111 女房おさわ 沢村国太郎 戲面堂芦ゆき面 本清中邑

真柴久吉 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清中邑

武智光秀 中村歌右衛門 戲面堂芦ゆき面 本清中邑

嘉平次妻玉笹 中村 松江 戲面堂芦ゆき面 本清中邑

△文政十二・九、角、松下嘉平次連歌評判▽

112 女房おとく 中村 松江 戲面堂芦ゆき面 本清

浮世又平 中村歌右衛門 戲面堂芦ゆき面 本清

雅 楽之助 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△文政十二・九、角、けいせい反魂香▽

113 真柴久次 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

石田ノ局 中村歌右衛門 戲面堂芦ゆき面 本清

真柴久秋 中村 梅助 戲面堂芦ゆき面 本清

娘 綾 織 中村 松江 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保元・正、角、けいせい雪月花▽

114 百姓五作本名 中村歌右衛門 戲面堂芦ゆき面 本清

石川五右衛門 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

三浦帯刀後ニ 真柴久次

△右同狂言▽

115 真柴久吉 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△右同狂言▽

116 ※仁木直則 尾上菊五郎 芦ゆき面 本清

△天保元・三、竹田、伽羅先代萩▽

117 古手屋八郎兵衛 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保元・八、中、花楓浪花詠▽

118 ※早野勘平 中村歌右衛門 芦ゆき面 綿喜

△天保元・九、角、芦屋道満大内鑑(註1)▽

119 娘 おそめ 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保元・九、角、染榎様妹背門松▽

120 吉川帯刀 浅尾額十郎 戲面堂芦ゆき面 本清

尾形力丸 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保二・正、角、けいせい廓亭環▽

121 尾形力丸 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

大内さと姫 藤川 友吉 戲面堂芦ゆき面 本清

△右同狂言▽

122 不ハ伴左衛門 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保二・正、角、東土産稻妻草紙▽

123 花うり佐市 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△天保二・九、角、忠孝齋二街▽

124 唐橋作十郎 嵐 璃寛 戲面堂芦ゆき面 本清

△右同狂言▽

125 ※宮本無三四 嵐 璃寛 芦ゆき面

△天保三・正、筑後、復讐二島英雄記▽

125 ※宮本無三四 嵐 璃寛 芦ゆき面

126 (小割伝内) 嵐 璃寛 戯画堂芦ゆき画 (欠)

△天保三・九、中、弘暁浦朝霧▽

127 錦 祥女 中村富十郎 芦ゆき画

本清割

和 藤内 嵐 璃寛 芦ゆき画

本清割

△天保四・五、角、国性爺合戦▽

註1 「野千平 中村歌右衛門」なるべし。

## 二 署名・印章

戯画堂芦ゆきの作品は、総数では多く見る事が出来たが、初期の作品即ち文化十年に近接する頃のもの、遺憾ながらほとんど管見に入らなかった。それらはいずれも黒田氏の調査及び同氏掲出の写真版によっているわけである。さて彼の最初の作品は、文化十年、松王丸に扮する歌右衛門を写した塩長版〔1〕だが、この時は長国と署名されている。しかし第二の作品、文化十一年の友右衛門・吉三郎を写した塩長版〔2〕には、「長国改芦幸画」とあって、この人物が同一人物の改名である事がわかる。以後彼は芦幸・あし幸と記す様になるが、旧名の長国を使う事もあったらしく、管見では文化十四年に、中村歌右衛門をえがいた綿喜版で旧名を用いているし、黒田氏によると文政四年に嵐橋三郎をえがいた綿喜版で「浪花長国」の署名をしている。しかしそれ以後この名は見えなくなる。

別に「芦雪」と記した例が一件あって、文政六年の多美国・芳洲との合作がそれである。芦雪・芦ゆきが別人ではないという確証はないが、芦の字はその頃の芦ゆきの署名に必ず見られる後述の第八画の特徴が歴然としていて、画風もまず矛盾がない。すでに彼は文

政二年以後、芦幸と署名する事を全くしなくなって、芦ゆきと記すのが常になっているから、それにたまたま雪の字をあてたものであろう。

以上の長国・芦雪を別にすると、文政四・五年以降は管見の全ての場合「芦ゆき」と下半を平仮名書きにし、さらに文政八・九年以降は「戯画堂芦ゆき」と記して、例外は極めてすくない。ただし、戯画堂の号の初見は文化十四年までさかのぼる様である。

ところで署名の字体であるが、「芦」の字にすこぶる特徴をもっている。その第八画即ち最終画は、はじめ長くひいて一寸左にはねるのを常とする。之が文化十四年頃から左方へ大きく脹ませる変形が現われ、文政三・四年頃からは、ほぼ例外なしにそうなる。この最終画の彎曲は極端に大きい場合とそれ程でもない鉤形の場合とがあるが、共に一見して判別できる大きな特徴で、「ゆき」の「き」の字が全く例外なしに「紀」の草体を用いる事と共に、彼の署名の際立った点である。

別に「ゆき」を仮名書きせず、「芦」の字も略さずに「蘆幸」と署名した例も一例見たがこれは極めてめずらしい。もともと先にかけた作品一覧では一例にとどまらない様に見えるが、それらは全て黒田氏の著書でそうになっているものであって、この場合「蘆」の字になっているのは元は殆んどが「芦」だったろうと推定する。ただ写真版で確認訂正した一例〔2〕を除いては、判断が出来なかった為、凡例の通りの記載方法によっているものである。

芦ゆきに花押のあるのを知らない。春好斎北洲は初期の作品に一例だけがあったから、芦ゆきも前述の様に文化十年頃の絵を今少し見る事が出来たら使用例がうかぶかと思うのだが、今の所全く管

見に入っていない。

印章は八種類を見る事が出来た。署名の字にかかって捺印され、位置から言うところの絵師の印としか思えないが、はっきり玉置と読めるものは除いた。まだ八種類の中には之に類した印もあるのではないかとと思うが、御批正を仰ぐ為にもと思つて、読解できぬ印もすべてあげた。①②③でその形を分類し、後に写真版にて掲げておいた。

④「長国」の二字の正方形印。文化十年の彼の最初の作品に使用されてゐる一例のみである。原画未見。さいわい黒田氏の前掲書第八十二図に鮮明な写真版がのせられてゐるので見る事が出来た。

⑤「芦幸」の二字を刻んだ正方形印。文化十一年八月のあらし吉三郎を写した絵に一例見えてゐる。

⑥「ニ・ロ・ト」の片仮名三文字が、不定形の枠の中に散らばつてゐる印。文化十一年八月の中山新九郎を画いた絵に一例みえる。何をあらわした印か判断出来ず、あるいはここに加えるべきでない印かも知れないが、掲げて御教示を得たい次第である。

⑦ 文政六年九月、蝦十郎、歌右衛門をえがいた二枚続きの一方に用いられてゐる円形印。不鮮明でもあつて全く読解できない。なお彼の印の内これだけが墨印である。

⑧ 平仮名の「ゆ」の字を図案化したかと思われる印で、使用例は文政六年九月頃から後可なり多い。とし国・はつ国と言つた同じ芦国門流の絵師たちがいづれも、之によく似た印を用いてゐる事は興味深い。

⑨ 最も頻りに用いられてゐる縦長小判形の小印。真中で二分され、上半分が「芦」の変形図案化したものと見れば、下半分は「幸」と読みたいが、無理であろう。それでも上の「芦」は許されるか

も知れない。また、これ以外の読みは一寸思いつかない。文政七年以後十年までしばしば見られる。

⑩「戯画堂」の三字を円でかこんだ可なり大型の印。文政十二年九月、歌右衛門・璃寛・松江の三人を写した三枚続きに見えてゐる角形印。読解できない。門のような形の図案を片仮名三字と見て、

右二字を「ユキ」と読むのは容易であるが、残つた左の一字(？)を「アシ」とは読めそうにない。天保元年九月の、璃寛を写した本清版に、一例見えてゐる。

これらの印は、朱肉を用いて捺刷されたものばかりではなく可なりが模刻と思われ、頻出するものは同じ形ではあつても細部は微妙に違つて、全く同じというものは無い様である。写真にかかげた中で⑥の印が最もそれがわかるのではないかと思ふ。

### 三 彫師・摺師・版元

前稿で北洲関係の彫師・摺師について述べた時、一般的な問題点にも多少言及したが、要するに彫師や摺師に関する材料は、私は殆んど知り得てゐないのである。画面に間々見える彼らの簡略な署名じみたものが殆んど唯一の資料である。それでも最近偶然読む事の出来た石井研堂氏著『錦絵の彫と摺』によると、江戸絵は弘化嘉永頃からは署名があるがそれ以前は稀で(かえつて古い頃に多い)就中文化八年の板木屋仲間の事件以後は、彫工の名など記さなくなつたとさう。さすれば文化文政期に多少とも名をあらわしてゐる上方絵のそれは、貴重な資料かも知れない。

さて北洲の絵には、彫師・摺師の記載が稀ではなく、彫師の肩書きに北洲門人と名乗る者も見えて興味深かつたが、之に比べて芦ゆ

きの場合、殆んど見るべきものが無い。

文政八年正月の絵に、かすかに摺師らしい印が見えるが捺しが悪くて読めず、初見は、同七月のワタキ版に見える「スリざこば」一枚と「すりざこば」二枚とである。その後、文政十二年に「カホリ」及び「加介ホル」とある絵が各一枚、いずれも本清版である。そして天保元年の本清版に見える「カ小刀」が最後らしい。

「加介」と、単にその頭文字を取った「カ」とは同一人物と思われ、「小刀」は彫師の意である事は間違いないから、芦ゆきの場合に見る彫師の名は「加介」一名だけである。「加介」は別に「カ助」「嘉助」「加助」また「板木屋嘉助」「細工カスケ」など様々に記しているが、前稿に記した通り、文政五年に大坂両国ばしに住んでいた「勘助」かも知れぬという推定を試みた人物である。

北洲の門人でもある。摺師の「ざこば」は、この芦ゆきの三枚のほかには見えない。もともと彫師よりさらに摺師の名の見える事は稀で、管見の限りの上方役者絵全体で、「スリ金治」「摺工松村金治・同熊治」「摺物師天徳」「スリ安」「スリ直」「スリ鉄五」「スリ豊三郎」「スリとよ」「スリ江戸岩」等の名を散見しただけである。以上のものは多少とも名前の符丁じみているが、「ざこば」は地名で、その住まいからつけられた呼称かと思われるが、その他の事は何もわからない。

芦ゆきの作品で彫師・摺師の記載がすくないのは何を物語るのだろうか。後述の通り彼の絵から受ける極く大雑把な印象は、北洲に比べて「粗笨」と言う事だが、画面の仕上りや整いぶりの上でも之は言えるわけである。役名・役者名から絵師名・印・彫師摺師という諸要素を完備した絵が北洲に多く芦ゆきに少い事も、之と結びつく

かと思われる。末端まで丁寧に彫られ入念に仕上げられているかどうかを、私は画風に結びつけてこう考えてみたりにしているのである。芦ゆき作品の版元は、他の絵師の場合と同じく、塩長版から始まる。文化十三年角座で中村歌右衛門・中山よしをが、「恋飛脚大和往来」の忠兵衛・梅川を演じた絵が、一方で春好・春蝶合作で塩長から出たのに対し、一方で芦ゆきにより、綿喜から出ている例及び同年月同座の「伊賀越乗掛合羽」の、歌右衛門・仁左衛門が天喜から出されている例があって、以後、塩長・綿喜・本清等が行なわれるが、塩長は文政二年以後見えなくなる。

本清 89 利新 5 泉理 2  
綿喜 54 吉 7 あき惣 1  
塩長 33 天喜 3  
芦ゆきの絵を版元別にその枚数で分けると、右の通りである。之には合版元を含んでいる。最大の版元は本清で、これは北洲の場合と同じだが、第二の版元は、北洲がわずかに四枚にとどまった綿喜である。第三は塩長、北洲では、ここからのもの五十八枚を確認し第二番目の版元だった。利新・天喜と言った北洲の主要版元も、芦ゆきはほんの数枚にとどまる。つまり芦ゆきの主要な版元は三店で、本清・綿喜・塩長である。念の為両絵師の主要版元を比べておこう。

(芦ゆき) (北洲)

本清	89	87
綿喜	54	4
塩長	33	58
利新	5	53
天喜	3	22

北洲では一・二枚程度しか出してない小版元や、他との合版元が多くあったが、芦ゆきにはすくなく、その中では、文政五年の「あき惣」と言うのが一枚だが目新しいものである。あき惣は、文政四年に春蝶、文政七年に芝国の絵を出しているのを見た程度である。

#### 四 合作・門弟関係

芦ゆきが合作をしている絵師は管見では左の三名で、その年代と件数をかかげてみる。

よし国	文化十四年(1)、文政六年(1)
国 広	文政六年(1)——よし国と三人合作、
多美国	文政六年(1)——芳洲と三人合作、同七年(1)
芳 洲	政文六年(1)——多美国と三人合作、

(1) 内の数字は件数

まず「よし国」は、吉田氏前掲書にその名前について考証があり、<sup>註①</sup>「芳洲」と同一人物で「芳国」とも記す。文化十四年改名以前は芦鷹(丸)、寿好堂とも称している。黒田氏・吉田氏共に芦国門人と推定しておられる。管見に入った多美国との三人合作は珍しい例で、二枚続きだが、一枚に芦雪が橘三郎をえがき、他の一枚に多美国が額十郎、芳洲が中山百藏をえがき同一一枚中の合作である、次の合作者国広は、文化十三年から七十件余の作品があり、初代歌川豊国門と推定されている。丸丈斎又江南亭と号している。多美国は、今述べたよし国の門人とされる絵師で、好画堂とも号し、文政六年以降十件ほどの作品を残している。

芦ゆきの合作品については、その量が少い事がまず目立つ。三名の絵師と四件の合作をしているだけである。この量は、今後調査を

広げてでもそう変らないだろう。北洲が多くの合作をしているのと対照的と言えようか、それは芦ゆきに門弟が無かった事も一因となっているだろう。しかし合作は必ずしも同門で行なわれるとは限らないわけで、之は積極的な理由にならない。やはり甚だ漠たる言い方ながら、芦ゆき自身の活動範囲のせまきという様なものをうかがうべきではあるまいか。

芦ゆきの師受関係は、緒言に述べた通り厳密にはわからないが、師と考えられているのは芦国である。この人物については又別に考えたいのでここではふれない。又芦ゆきの門人は、確認できる者は一人も居ない。

#### 結 言 — 画風管見 —

芦ゆきは文化十年から天保三年までの二十年間作品がみえているが、その画風の変化は三期に分けて考えるのが適当と思われる。もつとも、残された作品の量から言うると、彼には二つの山があつて、文化十三・四年頃がまず作画量が多く、文政元年から五年はほとんど無く、文政六年にいたつてその量が急に回復し、文政末年まで一貫してその量を保っている。つまり文政元年から五年までの長い谷間をはさんで、彼の絵の量は前後二つの山をなしているわけである。その前期のうち文化十年、十一年の絵は、それ以後と區別されうる特徴があるため、ここをさらに二期に分けて、全体として三期に区分して考えるわけである。以上の作画量の変動は、多少の時期のずれを除いて春好斎北洲のそれと一致しているのが興味深い。

さて、管見に入った彼の最も早い時期の絵は文化十一年の二枚であるが、そのうち特に吉三郎を写した方は、所謂上方絵の特徴をい

かなく發揮している。大ぶりの人体、古雅なゆったりした結構、大きなやや四角の役者の頭部、顔つきの穏やかさ、そして全体を入念に仕上げている行きとどいた技術、同時期の春好に比べるとやや力弱いものを感じるが、それでも上方絵らしい安定した雰囲気は明瞭に感ぜられる。

ところが十三年になると、別人の如き絵があらわれる。もともと典型的な例は、仁左衛門・歌右衛門・蝦十郎の三枚続〔13〕で、人物は皆均衡を失した大き首と甚だ整わない目鼻をもち、やや漫画的なデフォルムをされているかの様である。粗雑な作で、印象は甚だ上方絵らしからぬ不安定な弱々しいものである。この時期春好が安定した秀れた作品を多く残しているのは正に対照的である。興味深いのは芦友・芦卿ら同門の絵師は芦ゆきと同様の風が見える点である。無駄な空白が多い、画面の白っぽい、印象の甚だ稀薄な絵である。これは後の作品と結びつけてみると、固定化の橋渡しの時期という感じが強くする。この粗笨は過渡期の混乱と見るのが当っているだろう。

十四年になると画風の固定化がはっきりうかがわれる。大ぶりの顔面は小さく、身体もほどよくなり、上方絵の特徴が失われて行く傾向が見える。それでも〔16〕の絵の如く古体を残すものもあるにはあるけれど、全体としてこの傾向はもうはっきりしている。やがて文政元年には〔22〕の様な、力無く小さくしやしよくまとまった絵になってしまうのである。そうしてむかえる五年間の谷間をへて、文政末年の文字通り芦ゆきの固定完成の時期を迎える。

文政八・九・十年頃の芦ゆきの絵は、見事な完成と安定とを示している。どの作品をあげてもそうであるが、安心して見られる技術

の完璧さがうかがえる。その頃彼に画かれる役者として嵐橋三郎が最も頻りに現われるが、鷹がね文七や熊坂長範などは、確かに秀れたものと言えるだろう。北洲と異なると彼はこの時期も大首絵に踏み出す事はしないが、よく整理されてすっきりした背景に、危なげのない構図で人物の全身を浮び上らせる事に成功して、力のこもった役者絵となっている。

### 註① 『歌舞伎絵の研究』二〇一頁

〔追記〕 本稿は全く、阪急学園池田文庫の長期にわたる御厚意に依って成ったものであって、同文庫長草間四郎氏をはじめ職員の皆様方及び同文庫嘱託庵滝巖氏には、心から御礼を申し上げる次第である。

また私の調査範囲を拡大できたのは早稲田大学演劇博物館の所蔵分を拝見できたからで、同館及びその方面御担当の長崎一氏、御紹介頂いた菊地明氏に衷心より感謝申し上げます。

### 図版解説

1 池田文庫蔵。文政八年七月角座「藍桔梗鷹金小紋」。後期の代表作。

2 池田文庫蔵。文化十一年八月角座「比良岳雪見陣立」。初期の代表作。

3 池田文庫蔵絵より各種の署名・印章。

① あし幸の署名とB印。文化十一年。

② 芦幸の署名とC印。文化十一年。

- 4
- ③ 芦ゆきの署名とD印。文政六年。
  - ④ 芦雪の署名。文政六年。芦の字の特色は十分にうかがえる。
  - ⑤ ⑥ E印。大形の方は文政七年、小形の方は文政九年。
  - ⑦ ⑧ 戯画堂芦ゆきの署名とF印。陽刻と陰刻、共に文政九年。
  - ⑨ ⑩ G印。文政十二年。
  - ⑪ H印。天保元年。
  - ⑫ 長国の署名。文化十四年。
- 池田文庫蔵。文化十四年正月角座「けいせい稚児洩」。古  
体を残す中期の代表作。三枚統のうち二枚。





(池田文庫所蔵)



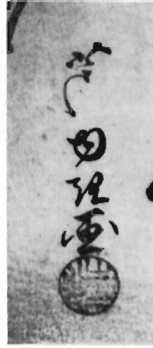
(池田文庫所蔵)



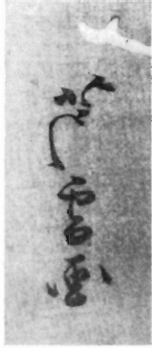
①



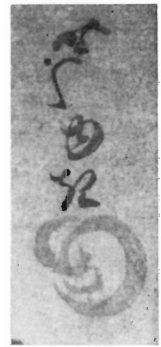
②



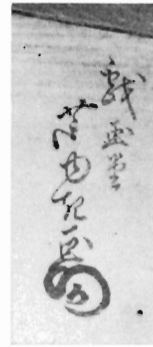
③



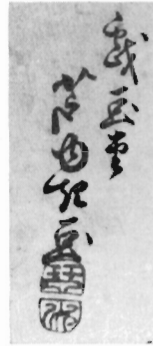
④



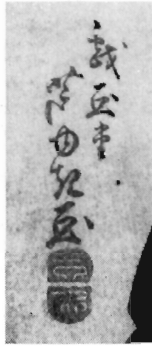
⑤



⑥



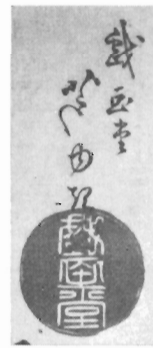
⑦



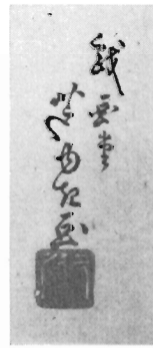
⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



(池田文庫所蔵)